

【添付資料】出演者プロフィール

石崎ひゅーい

本名。

母親が David Bowie のファンで、その息子が Zowie（ゾーイ）という名前だったことから、もじって、Huwie（ひゅーい）と名付けた。

2018 年、菅田将暉に楽曲提供した「さよならエレジー」が驚異的なヒットソングに。

2019 年、大泉洋主演映画「そらのレストラン」にも出演し、俳優としても活躍の場を広げる。

オフィシャルサイト：<http://www.ishizakihuwie.com>



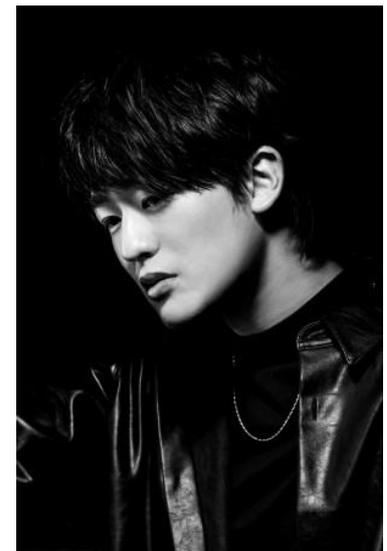
尾崎裕哉

デジタルネイティブ世代のバイリンガル、
コンテンポラリー・シンガーソングライター。

1989 年、東京生まれ。

2 歳の時、父・尾崎豊が死去。母と共にアメリカに渡り、15 歳までの 10 年を米国ボストンで過ごす。慶應義塾大学大学院卒。2016 年に、自伝『二世』（新潮社）を出版し、アーティスト「尾崎裕哉」としては初の音源となる Digital 1st Single『始まりの街』をリリース。2020 年 10 月に 1st フルアルバム「GOLDEN HOUR」を SME レコーズより発表。

フルオーケストラとの競演によるビルボードクラシックスコンサートは 2019 年 5 月のサントリーホール、2020 年 8 月には兵庫県立芸術文化センター KOBELCO ホールにて開催、そのスケール感ある表現力が高く評価された。また弾き語りツアー「ONE MAN STAND」、バンドツアー「INTO THE NIGHT」と様々なスタイルでのライブ活動を行っている。ラジオ番組「Night Time Dreamers」（FM COCOLO）も担当している。



尾崎裕哉オフィシャルサイト www.hiroyaozaki.com/

須藤晃（音楽監督）

1952 年生まれ 富山県出身

音楽プロデューサー・作家。

1977 年東京大学文学部英米文学科卒業。

1977 年 CBS ソニー（現ソニー・ミュージックエンタテインメント）入社。

1996 年に独立、(株)カリントファクトリー主宰。

2015 年よりオーバード・ホール／（公財）富山市民文化事業団芸術監督に就任。

尾崎豊、村下孝蔵、玉置浩二、石崎ひゅーいらの制作パートナーとして数々の名曲を発表し続けている。



栗田博文

1988年、第23回東京国際音楽コンクール指揮部門において第1位優勝を果たし、翌年、国内主要オーケストラを指揮しデビュー。1989年に渡欧。同年、第1回アントニオ・ペドロッチ国際指揮者コンクール（イタリア）に入賞し国際的な評価を確立。1995年第1回シベリウス国際指揮者コンクール（フィンランド）の最高位に輝く。同年、フィンランド放送交響楽団より招かれ、ヨーロッパデビューを果たし大好評を博す。国内外の活発な指揮活動とともに、国立音楽大学客員教授を務め、後進の指導にも力を注いでいる。クラシック音楽の古典から現代作品まで、幅広いレパートリーを持つほか、様々なジャンルとのコラボレーションも積極的に行っている。栗田博文ブログ <http://hirofumi-kurita.com/>



東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督チョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者にミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamura オーチャードホール、東京オペラシティコンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷の午後のコンサート」「平日の午後のコンサート」「休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHK ニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルベスターコンサート』などの放送演奏、各地学校等での訪問コンサート等により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として、高水準の演奏活動とさまざまな教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を得ている。1989年からBunkamura オーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。公式ウェブサイト <https://www.tpo.or.jp/>
写真クレジット©上野隆文



大阪交響楽団

1980年創立。初代音楽監督・常任指揮者に小泉ひろしを迎える。永久名誉楽団代表・敷島博子が『聴くものも、演奏するものも満足できる音楽を！』を提唱。いつも聴衆を“熱く”感動させるその演奏は、「魂の叫び」「情熱の音」と評されている。1992年1月にトーマス・ザンデルリンクを音楽監督・常任指揮者に迎え、オーケストラとしての基礎を築いた。その後曾我大介を音楽監督・常任指揮者に、さらに大山平一郎がミュージックアドバイザー・首席指揮者に、そして2008年4月からは児玉宏が音楽監督・首席指揮者に就任、その活動ぶりと演奏は各方面から高い評価を得た。楽団名を「大阪シンフォニカー」から2001年1月に「大阪シンフォニカー交響楽団」、さらに2010年4月に「大阪交響楽団」と改称。また支援組織として、1988年大阪シンフォニカー協会設立、2008年12月に一般財団法人となる。さらに2012年4月に支援組織と楽団を統合し、一般社団法人大阪交響楽団となり、2018年11月に公益社団法人となった。2000年本拠地を



大阪府堺市へ移転。2006年4月、大和ハウス工業株式会社 代表取締役会長 樋口武男氏が運営理事を経て、2018年11月公益社団法人大阪交響楽団理事長に就任。2020年10月に大和ハウス工業株式会社 代表取締役社長 芳井敬一氏に理事長をバトンタッチした。日本楽壇最長老の外山雄三がミュージック・アドバイザーを経て、2020年4月名誉指揮者に就任、2019年4月には太田弦（2015年、第17回東京国際音楽コンクール〈指揮〉で第2位ならびに聴衆賞を受賞）が正指揮者に就任し、さらなる楽団の飛躍が期待されている。

楽団公式ホームページ <http://sym.jp>

写真クレジット ©飯島隆